

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	
		6/26-7/3	7/3-10
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.130
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.075
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.034
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.160
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.058
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.042
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.040
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.056

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	
		6/26-7/3	7/3-10
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.028
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.018

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第113回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(2019年6月26日~2019年7月10日)

今回は、複数の観測点でセシウム137濃度も不検出であるとともに平均濃度も極めて低く、健康影響の心配はありません。放射能の量は、Bq(ベクレル)という単位で表されます。1Bqとは1秒に1個の原子核が崩壊して放射線が出る放射能の量という意味です。この名前は放射能を発見したアンリ・ベクレルに由来しています。数値が大きいほど、放射線を放出する放射能の数が多いこととなりますが、仮に異なる二つの放射性物質が同じ1,000Bqの放射能を有していても、それぞれ放射線の種類や強さが異なり、人の体に与える影響の大きさも異なります。そこで、人間が放射線を受けた場合の影響度を示す共通の単位を別にSv(シーベルト)と定めています。